

# 西和賀町立小中学校エアコン運用指針

西和賀町教育委員会

令和元年 8 月

## 目次

1	はじめに	
	(1) 本指針について	2
	(2) 環境負荷低減及び児童生徒の健康への配慮について	2
2	夏季の稼働	
	(1) 冷房の稼働期間	3
	(2) 稼働時間等	3
	(3) 設定温度	3
	(4) 換気	4
	(5) 扇風機の併用	4
	(6) カーテンの活用	4
3	冬季の稼働	
	(1) 稼働の原則	4
	(2) エアコン設備に係る電源の管理	4
4	エアコンの操作	
	(1) 使用開始から使用終了	5
	(2) 稼働終了の確認	5
5	その他	
	(1) 定期的な清掃の実施	5
	(2) 室外機の管理	5

## 1 はじめに

### (1) 本指針について

学習への快適な環境を整え、児童生徒が意欲を持って学べる条件整備と、近年の夏場の気温上昇による熱中症予防などの児童生徒の健康面への配慮のため、国の交付金を活用し、町立の小中学校普通教室等にエアコンを導入しました。

これに伴い、コンピューター室等に既に設置されているエアコン及び今回導入したエアコンについて、適正かつ有効に使用していただくとともに、児童生徒及び教員それぞれが、省エネ・地球環境への配慮等に対する意識をより一層高め、創意工夫した取り組みを推進されるよう、本指針を定めます。

併せて、冬期間の暖房の使用についても、原則を定めます。

### (2) 環境負荷低減及び児童生徒の健康への配慮について

エアコンの導入は、学習への快適な環境を提供する一方で、電力消費による温室効果ガス（二酸化炭素等）の排出量が増えるなど環境に負荷を与えてしまうという側面を持っているほか、使い方によっては、児童生徒の健康にも影響を与えかねません。

これらのことを踏まえ、教育環境について教職員・児童生徒がともに考えながら、地球環境・児童生徒にやさしいエアコンの運用を学校体制として進めてくださいますようお願いいたします。

## 2 夏季の稼働

### (1) 冷房の稼働期間

概ね7月上旬から9月中旬を基本としますが、当該期間以外でも、暑さ指数（※WBGT）の値を参考にするなどして、稼働してください。特に、体が暑さに慣れる前の5月頃の急激な温度上昇に対しては、適切な学習環境となるよう配慮してください。

#### ※WBGT

暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度):(Wet Bulb Globe Temperature)は、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①温度、②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。

#### 【参考】

「学校環境衛生基準(平成21年4月1日施行)」(文部科学省)では、児童生徒等及び職員の健康を保護する上で、夏季の教室等の温度は28度以下であることが望ましいとされています。

### (2) 稼働時間等

稼働時間は、教室を使用している時間を基本とし、長時間教室を使用しない場合は電源を切ってください。

### (3) 設定温度

温湿度計で室温を測定し、冷房使用時の室温28度を目安に、適切な温度となるよう調整してください。

室温を28度にするため、設定温度を24度から28度の間で変更することは構いませんが、設定温度の下げすぎは体の負担になるとともに、エネルギーの無駄遣いにもなりますので、室温が適正になったら設定温度を28度にするよう心がけてください。

#### 【参考】

クールビズ(環境省による夏場の軽装化キャンペーン)で呼びかけている室温28度は冷房の設定温度のことではありません。冷房の設定温度を28度にしても、室内が必ず28度になるとは限りません。そのよ

うな場合は設定温度を下げることも考えられます。(環境省作成：熱中症環境保健マニュアル 2018 より)

#### (4) 換気

エアコン稼働中は、出入り口の戸や窓を閉め切って使用することが原則ですが、教室内の環境保持のため、適宜扉や窓を開け、十分な換気に努めてください。

なお、清掃時間中は、一旦電源を切って、窓を開けてください。稼働したまま清掃すると、エアコンのフィルターにほこりが詰まるなど故障の原因になる恐れがあります。

#### (5) 扇風機の併用

扇風機を併用することで、床付近にたまりがちな冷気を室内全体に効率よく循環することができます。そのことにより、体感温度を下げ、より涼しく感じることもできるとともに、空調効率も上がることから、エネルギーの節減にもつながります。

#### (6) カーテンの活用

エアコンの稼働中は出入り口の戸や窓を閉め、日差しの状況等に応じてカーテン等を活用して、冷房効率の向上とエネルギーの節減に努めてください。

### 3 冬季の稼働

#### (1) 稼働の原則

原則として冬季はエアコンの使用はせず、暖房機により空調を行ってください。

なお、操作、換気、扇風機の併用及びカーテンの活用については、夏季の例を参考に運用してください。

#### 【参考】

「学校環境衛生基準(平成21年4月1日施行)」(文部科学省)では、児童生徒等及び職員の健康を保護する上で、冬季の教室等の温度は17度以上であることが望ましいとされています。

#### (2) エアコン設備に係る電源の管理

冬季における誤った稼働を防ぐため、夏季のエアコン稼働時期終了後の

10月から翌年の稼働開始までは、エアコンにかかるブレーカーを切るよう努めてください。

#### 4 エアコンの操作

##### (1) 使用開始から使用終了

操作は必ず教職員が行い、教室の温度及び湿度を確認しながら風量や風向きを調整する等必要に応じて運転管理してください（上下の風向きはリモコンで操作可能。左右の風向きはエアコン停止時に手動で操作する必要があります。）。

##### (2) 稼働終了の確認

教室を使用していない場合は電源を切るほか、退勤時は全設置場所について切り忘れがないよう確認してください。

#### 5 その他

##### (1) 定期的な清掃の実施

教室内の環境衛生や省エネルギーのため、エアコンの稼働開始前及び必要に応じて期間中に室内機のフィルター清掃を行ってください（稼働開始前の清掃は必ず行ってください。）。

##### (2) 室外機の管理

エネルギー効率が下がらないよう、室外機の周辺には物を置かないようにしてください。

また、冬場には室外機への積雪状況を確認し、万一多量の積雪がある場合は取り除く等の対応をお願いします。